島松伝道所設立当初の経緯

1）島松におけるキリスト教の伝道への背景

① 北一条教会員である細田さんが 1930 年代に牧場地区で酪農を始める。千歳栄光教会で家族が入信する。また、同じ地域の酪農家橋田さんも 1954 年千歳栄光教会で受洗した。

② 札幌教会員斉藤重道氏が島松に住居と農地を購入。農地法に基づき農地の大部分は隣接の田中氏に売却。住居とその周辺の土地が一部残った。
札幌教会は斉藤氏の居住を勘案して 1952 年来クリスマス等の際に田中鷹丸氏（議員）の協力を得て子供会を開催していた。

③ 戦後、桜森地区に主として満州開拓者が入植した。現伝道所の隣接の田中氏（故人）などが中心になって同じ開拓者の中にいた南條氏（元救世軍士官）を牧師として『恵庭教会』を設立。しかし、桜森地区に陸上自衛隊北海道地区補給所が設立され、開拓地は解散して消滅した。



④ 1954 年、岸本貞治牧師が教区長を就任した。従来教区長は札幌教会か札幌北光教会の牧師が教区長を交互にしていたが、月寒教会の定家牧師、そして、千歳栄光教会の岸本牧師となったときにまだ開拓伝道の途上であることなどから補助者を置く援助がなされることになり、富室氏が迎えられ、千歳栄光教会伝道師として働くと供に主として島松に居住し開拓伝道に携わることになった。その際、前記斉藤氏の住居を教区開拓伝道費で購入。幼児教育施設も併設。

⑤ 1954 年、北海道開発計画が実施されるに及んで当時特別委員長であった黒沢氏（札幌教会）の肝いりで教会の開拓を進めようと提唱。また、当時、北海教区は日本基督教会の集団離脱に伴い、教区再構築の必要性にせまられていた。そのような時にアメリカの都市化に伴う都市のドーナツ化に対応する開拓伝道方式を採用していたＣＥＣ開拓伝道法式を取り入れ、北海道特別開拓伝道計画案が策定されることになった。

⑥ 北海道特別開拓伝道計画案は各年次５箇所を目図に 5 か年継続実施することになっていたが、完了するまでに挫折するところが続出。計画のずさんさが指摘されることになった。

2）島松伝道所の設立

① 1955 年、島松は北拓伝第 2 次指定地区となった。当時島松市外は戸数 300 戸、人口 1000 人程度で、自衛隊関係者と浄土宗を精神的支柱にした福井県出身の農民とその分家によって構成されていて、こうした地域に 5 年で教会の自立を図っていくことの問題性を含んでいた。



教会創立当時の教会員メンバー

② 結局、千歳栄光教会が島松に開拓伝道を始めるために斉藤氏の住宅を購入していた。いわば拠点があったことによったようで、むしろ恵庭市街地を選択したほうが好ましいと思われた。

③　購入していた斉藤氏の住居は公道上に立っていたために立ち退きが公示され、何十年間にわたり地代も払わなかったので立退き料はなし。曳き家料として 2 万円。当時教会の周辺の土地の地価一坪 300 円、住宅購入時に教会の敷地 300 坪の寄贈の申し出があったが、同氏が考えていたのは低地の水はけの悪い奥のほうの土地であったようだ。開拓で伝道を立案する際にこれらの確認がなされていなかったようだ。



最初の牧師館建築

④　赴任当初、牧師館はなく、天井が届きそうな下屋を出して作った４帖半の部屋一室で、教会は雨漏りがひどく、また牧師の個室ではストーブで暖を取ることもできなかった。

⑤　北大 80 周年記念行事にアメリカのウィリアム・Ｓ・クラークⅢが来られることを聞き、ゆかりの地、島松に教会を建てるべく伝道しているので、是非クラーク先生を島松にお迎えしたいので半日空けて頂きたいと無謀にも北大総長のもとに出向きお願いして実現した。

その際、町の有志もあんな湿地のしかも低地に教会を建てるなんて言えない、現教会の土地に教会建設予定地看板を建てようということになった。

(ア)　斉藤氏の同意を受け、半分低地とし、寄付を受けると共に自衛隊の施設隊の協力によって、他の周辺の整地も教会で実施した。この時代の費用は雑費のみであった。

(イ)　現在の殆どの樹木は周辺の方々の寄付によるが、においヒバは恵庭営林署の盤尻圃場から一本 50 円で購入したものであるが、すでに 2 メートル余の木の運搬は容易ではなく、これは補給所の武器隊の隊員と車両提供によって植樹した。

（ウ）　協力宣教師ブラウンリー氏の紹介でアメリカ。ウィシコン州アデルのシオン教会の名誉教師になり、開拓伝道の費用の献金を受ける。メッサーシュミット牧師と交流。この教会の献金は教団の開拓伝道費に繰り入れられた。

（エ）　小樽地区宣教師マクラウド氏の助力により、アメリカ軍の材木を教会建設のために寄贈を受ける。材木引取りの交渉に同宣教師と千歳第二空団に赴いた。日本政府はこれは輸入事項なので税金を払うように指示されたので、アメリカ軍司令部はそれではこの材木をサルベージ・ヤードに置くから持っていくようにと計らってくれた。それは相当量の材木で、厚さ 1 インチ、幅 10 インチ、長さ 40 フィートの板が２０枚ほどに束ねられ、その材質は米松で固くて重たい。　梱包の上にこの材木は島松の教会に寄付されたものだから使用してはならない。そんなことが書かれていた。だが、自衛隊の方でドラム缶の材木に使っていた。



（オ）　材木を引き取りたいが、何時に来たら宜しいか？当時第二空団中島司令官は自衛隊で勝手に使用した件について謝罪され、金銭で補償は難しいが、現物で補償したい。教会の建築をされるとのことなので、材木はその建築に必要な材木をいって貰いた

い。そうしたやり取りから角材を貰うことにした。指令は『こんなことが外部に洩れたら大変なことになる。責任は内部ではっきりさせるように。ついてはこの材木を島松までお運びしたら？』と週番将校に言い、大型トレーラーと隊員 20 名余で島松まで運ばれた。現在の床の下地、教会の柱に使用されている。

（カ）　会堂建築は直営工事で実施した。

3）伝道の状況

①愛沢兄（FEN CHITOSE　チーフ）、弟（建設業）・竹田兄（時計店）・岡兄（農業試験場研究員）・佐藤兄（中学校教員）・鈴木姉・竹田姉・和田兄（元役所職員）・越田夫妻・二俣姉（現在札幌・陸協職員）・川野姉（北広島）他。

　このほか転入会者が多かった。

②教会の敷地内を開放。子供たちの遊び場とし、遊び相手になった。また、近くの老人の溜まり場とし、お茶など飲んで話し相手になった。まだ老人施設やサークルなどがなかったので、よく集まってきた。

③ウィーク・ディの教会の解放、習字や絵画教室など学童保育の草分け。

④月 2 回の家庭集会

⑤映画伝道　　中学生を対象に映画館を貸し切りにし、学校の許可を取って実施。

⑥ブラウンリー先生の英語教室　　5〜60 人参加、また婦人の料理教室　　月 1 回。

　当時の教会の目指したものは、その地域に必要な教会、教会の土着ということ、地域の重荷を負う人々の癒しと励まし、慰めと再生への活力のオアシスとしての教会でありたい。ということを願っていた。



幼稚園開園当時の島松伝道所